

# 12/3～9は 「障害者週間」です

12/3の「国際障害者デー」から12/9の「障害者の日」までの「障害者週間」は、広く障がい福祉の関心と理解を深めるとともに、障がいのある方があらゆる分野の活動に参加する意欲を高めることを目的としています。

ここでは、障がい者等用駐車スペースとヘルプマークについてご紹介します。

## 障がい者等用駐車スペース

多くの方が利用する公共機関や商業施設などには、駐車場に障がい者等用駐車スペースが用意されていることがあります。こちらの利用対象は、車の乗り降りに広いスペースが必要な車いすを使用する方などです。

**必要な方が利用できるよう  
ご協力をお願いします！**

車いすを使用する方などが安全に車の乗り降りができるように、一般の駐車区画より幅が広く設けられています。

また、安全に移動できるようお店の出入り口付近に設置されています。

出入り口が近いからといって、必要のない方が駐車しないようにしましょう。



## ヘルプマーク

ヘルプマークは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病患者、妊娠初期の方など、外見からは分からなくても、援助や配慮を必要とする方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助が得やすくなることを目的としています。

**このマークをみかけたら！**

電車・バス内であれば席をゆずる、困っていたら声をかける、災害時に安全に避難するための支援をするなど、思いやりのある行動をお願いします。

**配布場所** 障がい福祉場所(りんくる1階)



## 手話に関するパネル展示と 障がいに関わる本の展示

本年12月16日で「石狩市手話に関する基本条例」制定から10年を迎えるため、これまでの取り組みや本紙表紙の「みんなで手話!」を紹介し、聞こえないことや手話、障がいについての関心と理解を深める目的でパネル展示と本の展示を行います。

■ 2(土)～10(日)  
図書館開館時間内  
所 市民図書館  
(花川北7・1)





「仕事を通して、誰かの役に立ちたい!」と日々奮闘する若者を追いかけるこのコーナー。今回は、黄金山にある推定樹齢1,500年のイチイの木を見守る樹木医 崎川哲一さんです!

問 秘書広報課 ☎72・3145

樹木医は、樹木の保護・育成・管理などを通して樹木に関する知識の普及や指導を行う専門家です。崎川さんがこの職業を意識するようになったのは中学2年生の時。当時、尊敬する祖父を亡くし、自分が継ぐと信じていた祖父の田んぼも宅地となつて意気消沈していたところを、父親が元気づけようと屋久島へ連れて行ってくれました。そこで出会ったのが縄文杉です。霧の中から浮かび上がる巨木に感動し、隣で見ていた観光客が涙を流す姿に「こんなにも人の心を動かすパワーがあるのか!」と心がふるえたそう。

この強烈な出会いをきっかけに巨木や森を守る仕事に憧れ、平成28年には(財)日本緑化センターが実施する資格審査に合格し、晴れて樹木医になりました。

「浜益の黄金山にあるイチイの木を見てほしい」と声がかかったのは、それからまもなくのこと。足を運ぶとそこには推定樹齢1500年という巨木がありました。同行していた別の樹木医の「これは北の縄文杉だ」の言葉に、崎川さんはかつて見た屋久島の縄文杉が重なり、運命の出合いだ—そう感じたと話します。

「この石狩の素晴らしい宝物を何とか皆さんにご紹介できれば」と、令和元年からは冬のイチイに会いに行くツアーを市内の旅行会社や市、浜益の皆さん、自身も関わるNPO法人 e z o r o c k と共同で企画。「このイチイを通して、樹木医としてこれからも自然の尊さを多くの方に伝えていきたいです」



樹木医  
さきかわてついち  
**崎川哲一**さん  
(32歳)

◆プロフィール◆

石川県白山市出身。北海道大学農学部森林科学科卒業、北海道大学大学院農学院環境資源学専攻修士課程修了。石狩市を拠点に行われたNPO法人 e z o r o c k の「プロジェクトNINOMIYA」にスタッフとして関わる一方、平成28年に北海道最年少(当時)の25歳で樹木医資格を取得。平成30年には木製知育玩具を開発・販売する合同会社「森のピタゴラス」の代表に就任。